

アメリカ大統領選挙の行方と日本

ジャーナリスト 佐藤則男

2016年のアメリカの大統領選挙は、予想外のことばかりが重なり、大波乱含みの展開となっている。筆者は41年前にアメリカに渡り、アメリカで生活し大統領選挙を見てきた。大統領選挙は少年の頃から大変興味を持っていた。そして、昨年11月、『なぜヒラリー・クリントンを大統領にしないのか?』という本を講談社より出版していただいた。この本を執筆したのは昨年8月で、その時点での分析と予想をした。ヒラリー・クリントンについては大体予想通りであるが、共和党の動きは予想が外れた。

当時筆者は、トランプの台頭とその勢いは大体今年1月頃には下火になり始めるのではないかと予想した。しかし現実では、トランプ旋風は現執筆時点の3月末になっても燃え盛るばかりで、トランプは共和党の指名代表に選ばれようとしている。これは全く予想外のこと、驚いている。

白人ブルーカラー層の心をつかむ

筆者が読めなかったのは、白人ブルーカラー層の意識と行動である。もともとこの層は民主党の基盤であり、トランプのような極端な右寄りで大富豪の人物に支持が流れるはずがないのである。しかし、白人ブルーカラー層は驚くべき動きをしたのである。

熱狂的に共和党のトランプを支持し、共和党指名代表寸前まで押し上げてきたのはブルーカラーであるが、その中でも白人ブルーカラー層である。この層のワシントン政治体制に対する激しい怒り

がトランプを持ち上げ、共和党予備選でトップを走らせているのである。この層がなぜ立ち上がり、トランプ支持に走ったのか究明することは極めて重要である。なぜなら、アメリカ社会の大変化であると筆者は思うからである。この動きは注目しなければならない。

一方トランプの台頭とは別に、トランプの人格的な問題がいつまでも消えない。人種差別主義者、独裁者、女性差別主義者などの極端な批判は予備選で勝ってもいつまでも付きまとい、払い切れないのではなかろうか。共和党内で「トランプは大統領としてふさわしくない」と判断し、トランプを党代表候補者にすることに反対する動きは根強い。

共和党の伝統的価値観と品格を保とうとする共和党エスタブリッシュメントは、トランプを何とか締め出そうと画策している。それにトランプは断固立ち向かわなければ、大統領への道は切り開けないのである。

白人ブルーカラー層のトランプ支持の理由は、何といても彼らが仕事を失い、危機に陥っていることに起因している。アメリカの失業者の数は、失業者をどのように規定するかで大きく異なるが、約2400万人と言われている、このうち、最も失業者として増えているのがブルーカラー層である。2000年、アメリカの仕事の20%は製造業であったが、それが14年になると、わずか5%まで減ったのである。「物を作る」仕事は、ほぼブルーカラー層の仕事と見ることができ、この急